カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095-843-3869
FAX 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

教皇さまの意向

・宣教
洗礼を受けたすべての人が、それぞれの使命に応じた福音宣教に携わることができるように

・日本
宣教月間にあたり、私たちが日々の生活を通して職場や家庭それぞれの場でキリストの福音を伝えていく者となるように

〝宣教する教会をめざして〟思い新たに 祈りと行動を

2023年10月に開催される世界代表司教会議（シノドス）に向けた「過程」が、今月10月から始まる。テーマは「ともに歩む教会のため―交わり・参加・そして宣教―」。また、10月24日は「世界宣教の日」。これらの機会を迎えるにあたり〝宣教する教会をめざして〟きた長崎教区を概観し、思いを新たに、祈りと具体的な行動へとつないでいきたい。（広報）

かつて新しい世紀に

かつて新しい世紀・21世紀を迎えたとき、前教区長・島本要大司教の導きのもと、時代に対応するべく改革された長崎教区の新体制が始動する（※）とともに、大司教は〝宣教する教会をめざして〟の祈り（2001年、長崎大司教区・『カトリック祈祷書』298頁）をつくり、教区では折に触れこの祈りを唱えてきた。その後、現教区長・高見三明大司教は〝参加し、交わり、宣教する教会〟を目指し宣教司牧を進めてきた。この間、長崎教区は、教区評議会の発足、ペトロ岐部と187殉教者の列福式、教区シノドス、信徒発見150周年、そして、フランシスコ教皇の来崎など、宣教と切り離すことのできないいくつもの恵みの機会を迎えてきた。

方向性の確認と共有

カトリック教会では100年、1000年単位で物事を考えると聞く。長崎教区の新体制が始動し数回の組織変更を経ながら現在20年、100年単位でみると5分の1に過ぎず結果がどうこうとは言えないが、この歩みの途中で「検証作業」つまり、教区の「方向性の確認と共有」はどれだけ意識されてきただろうか。正直、行事や会議に追われ、肝心の作業はおろそかになっていると感じる。この10月、2023年10月の世界代表司教会議に向けた「過程」が9～10日にローマで開始し、翌週17日には長崎を含む全世界の教区で始まる。さらに24日は「世界宣教の日」（毎年10月の最後から2番目の日曜日）で、今年のテーマは「わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです」（使徒言行録4・20）。これらの機会が〝宣教する教会をめざして〟祈り、具体的な行動へとつながるよう願う。

宣教する教会は…

最後に、高見大司教が今年の年頭教書（本紙1月号）で語った、わたしたちにできる行動についての一節を記す。

「宣教する教会は、わたしたちが『すべてのいのちを守る』姿勢と行動を示すことによって、いのちの福音を証しする教会です。わたしたちは、祈りを熱心にし、愛を説くだけでなく、日常生活が『すべてのいのちを守る』生活になっているかどうかを常に振り返る必要があると思います」

（※3面に関連記事）

ミサ典礼書が新たに―

全国典礼担当者会議

毎年9月に長野の軽井沢で開かれている「全国典礼担当者会議」が、今年はコロナウイルスの影響で9月6～7日、約50人の参加のもとリモート形式で行われ、長崎教区からも典礼担当者3人が参加した。

今年は「新しい『ローマ・ミサ典礼書』の実施に向けて」をテーマに、来年の待降節第1主日から変更される新しいローマ・ミサ典礼書についての情報共有が行われた。1日目は新しいローマ・ミサ典礼書の日本語版の準備に関するこれまでの経緯と実施に向けた今後のスケジュールの説明確認が行われ、2日目は実際に新しいミサの式次第と奉献文の本文に触れながら変更箇所を確認し、各教区の事情に合わせた周知方法などを検討した。

日本カトリック典礼委員会では、来年9月までの間に各教区での説明会を行う予定。長崎でもまずは司祭団に向けて来年初頭に研修会を行うことができないか、またその後どのような形で信徒に向けて説明会を行うのが良いのか検討中。今回多くの箇所が変更されているので、司祭も信徒も慣れるまでには時間も必要でしばらくは混乱が予想される。（教区典礼委員長・下山盛朗）

すべてのいのちを守るための取り組み

具体的行動への意識・継続を

9月1日に始まった「すべてのいのちを守るための月間」は、10月4日（アシジの聖フランシスコの記念日）まで続く。本紙9月号既報の通り、今年の月間にあたって日本カトリック司教協議会会長の高見三明大司教は8月、談話とカテケジスを発表した。談話「神の住まい、地球共同体を一新しよう」で示された具体的行動（以下①～③）について、今後も〝月間〟に限らず意識・継続されることを願い、中央協議会やバチカン・ニュースのウェブサイトを参考にあらためて紹介する。

①教皇回勅『ラウダート・シ』と『兄弟の皆さん』を丁寧に読み、互いに学び合う

環境保護をテーマにした『Laudato si'（ラウダート・シ）』と、兄弟愛と社会的友愛をテーマにした『Fratelli tutti（フラテッリ・トゥッティ）（兄弟の皆さん）』は、教皇が聖フランシスコからインスピレーションを得たという回勅。いずれも日本語版の本が中央協議会から出されている。（2面「新刊良書」参照）

②『ラウダート・シ』の目標に向かう7年間のプロジェクト「ラウダート・シ・アクション・プラットフォーム」について学ぶ

同プロジェクトの発足は今年5月25日、教皇がビデオメッセージを通して発表。同プロジェクトはラウダート・シ特別年（2020年5月24日～21年5月24日）をきっかけに生まれ、教皇は「統合的エコロジーの精神のもとに、わたしたちが生活する共同体が完全に持続可能なものとなるよう、さまざまな形で取り組む、7年間の歩み」と説明された。『ラウダート・シ』の7つの目標は、「地球の叫びに対する答え」「貧しい人の叫びへの答え」「エコロジー的経済」「シンプルな生活様式の導入」「エコロジー教育」「エコロジー的霊性」「共同体的取り組み」。詳細は「ラウダート・シ・アクション・プラットフォーム」を参照（上のQRコードから、外国語のみ）。

③よりシンプルなライフスタイルを日々目指す。（国連のSDGs（エスディージーズ）参照）

例えば、「水・電気・食料など資源を浪費していないか」「洗剤やプラスチック製品などの環境汚染物質の使用量はどうか」「海浜、里地里山、街中など、身近な場所でのゴミ拾いや清掃はしているか」などをチェックする。

カ障連の発足と長崎大会に向けて

障害者から私たちの信仰のあるべき姿を探し求めて！②

教区福音化推進部　紙﨑新一

「カ障連」…カトリック障害者連絡協議会

前回（『カトリック教報』21年6月号）の通り、世界は今、障害者を含む社会的少数者（以降、弱者）に目を向け、すべての人が平等で共に生きる社会を目指し動き始めています。ユニバーサルデザイン2020行動計画や、最近よく耳にする「SDGs（エスディージーズ）」（持続可能な開発目標）はその動きです。

一方教会は、弱者と関わる社会問題を行政にまかせ、弱者に向けて福音を生きる奉仕者養成には無関心で、信徒へのリーダー養成にいそしみ、福音的基礎共同体づくりも方向性が立たず、主のみことばは土に埋められたままです。

解決を求め、聖書を開くと『旧約聖書』には、レビ記（19・14）や申命記（27・18）などに弱者を護（まも）る記述がある一方で、失明（しつめい）（レビ記26・16）や精神錯乱（さくらん）（申28・28）などの障害が罪の罰として与えられるとか、障害者は祭司の務めをしてはならない（レビ21・21）など、弱者への差別的表現があるのも事実です。

弱者は欠けた存在という当時の地域社会に広がっていた差別意識が、祭司職の禁止や罪の罰という差別的な表現につながっていったようです。

それでも、弱者が民と共生できるよう、レビ記や申命記など神との契約によって受けた*「律法の書」に明文化されることにより、慈悲からでなくとも正義の義務から、弱者を受け入れ共に生きる共同体を形成していきました。

一方、『新約聖書』「福音書」のイエスの活動は、はじめから病人や障害者、社会から排斥された人々に心を向け、彼らの心と体を癒（い）やし、すべての人が神に愛された一人の存在として、等しく肯定される社会への変革でした。

その象徴が、ヨハネ9章の盲人の癒（い）やしです。2-3節で弟子たちは、罪の罰を受けた盲人を蔑（さげす）み、誰の罪が原因か問います。これに対しイエスは、罪の罰という因果応報を真っ向から否定し、「神の業がこの人に現れるため」という、積極的なまったく新しい考えを示します。差別を受け排除された盲人は、イエスとの出会いによって目が開かれ、それだけでなく、イエスを信じる信仰の目まで開かれました。これこそ、「神の業がこの人に現れる」こと、障害は神のみ業を現す機会となりました。

ところが、イエスの活動は、抵抗勢力によって阻止されていきます。それにもかかわらず、イエスの福音が世界に広がっていったのはなぜでしょうか。福音を受け継いだ教会は、今の教会とどうつながっているのでしょうか。それは、次回に「つづく。」

＊モーセ五書と呼ばれる旧約聖書のはじめの「創世記」「出エジプト記」「レビ記」「民数記」「申命記」

ほしかげ

「どちらにしようかな天の神様の言う通り」。もともとは「子供の数え歌の一種」で、「主に何かを選んで決めるときに使われるもの」（ウィキペディア）らしい。この「神様の言う通り」は全世界でも見られるのだとか。こんなところにも、神様はそのお顔をお出しになる▲「そこで人々は、バルサバと呼ばれ、ユストともいうヨセフと、マティアの二人を立てて、次のように祈った。『すべての人の心をご存じである主よ、この二人のうちのどちらをお選びになったかを、お示しください。ユダが自分の行くべき所に行くために離れてしまった、使徒としてのこの任務を継がせるためです。』二人のことでくじを引くと、マティアに当たったので、この人が十一人の使徒の仲間に加えられることになった。」（使1・23-26）▲なんと、12使徒の欠員を満たすために選ばれた方法は「くじ」だった。くじを引いたのがヨセフとマティア当人たちだったのか、それとも、11使徒の誰かであったのか、それは分からない。しかし、神様はマティアを使徒としてお選びになられたと、教会は信じた▲人は今日を生きている。明日の事、明日の命など誰もまた何も知らない。ならば、「すべての人の心をご存じである主」だけに信頼し、祈り、あとはすべて主にお任せして良いのではないか。愚かなる者が決めなくとも良い。「天の神様の言う通り」　（三S）

「…しかし 長崎の教会は死ぬことはありませんでした」　ヨハネ・パウロ2世（1981年）

わたしたちは何を目指すのか ⑨

受けた福音を伝えるために

新潟教区司教　成井 大介

長崎大司教区の皆様、遠く新潟よりご挨拶申し上げます。このたび教区報の原稿の依頼をいただきまして、大変恐縮しております。ご依頼いただいたテーマは、ウェブサイトやユーチューブ（YouTube）、フェイスブック（Facebook）など、インターネットを通して発信しているメッセージは、どのような思いで伝えているのか、というものです。ご参考になるか分かりませんが、普段から発信するにあたって個人的に感じていること、大切にしていることなどを書いてみたいと思います。

私的なことで恐縮ですが、私は子どもの頃5年ほど家族とインドネシアに住んでいました。幼稚園1年、小学校4年の期間を向こうで生活しましたが、日本人学校に通ったのでインドネシア語はほとんど話せませんでした。つまり、周りの人と言葉が通じないのが普通。言葉が通じなくても遊んだりコミュニケーションが取れて当たり前という環境で育ったのです。近所の人と一緒にバナナチップスを食べたり、イスラム教のお祝いの日に近所で山羊を屠るのを見に行ったり、家の前の通りにやってくる猿回しを見に行ったりと、当然ですが、普通に日常生活を送っていました。こうした背景から、私は人とコミュニケーションを取る時に言葉だけでなく、気持ち、笑顔、興味、一緒に何かを食べたり感じたりすることなどを重要視する傾向があります。そんな私にとって、コロナ禍で始まったリモートで様々なことを行うという生活は、なんともしっくりこない、落ち着かないものでした。

叙階式にて

私は去年まで、ローマにある神言会の総本部で5年ほど働いていました。昨年の5月、福音宣教省から新潟司教の任命を伝えられた時の驚きは、言葉に表しようがありません。しかし、新潟教区の人々の驚きはもっと大きなものだったでしょう。何せ、新潟教区で働いている司祭でないどころか、日本にすらいないどこの誰とも分からない司祭が自分たちの教区の司教に任命されたのです。通常でしたら叙階式が信徒の方々との良い顔合わせの機会になるのだと思いますが、それもコロナ禍のために、60人ほどに限定した式になりました。それで、叙階式準備委員会は新潟教区初のユーチューブのライブ配信を計画してくださり、教会や修道院、家庭から多くの人がオンラインで式に参加し、心を合わせて祈ってくださいました。これは本当にありがたく、祈りが心に沁みました。しかし、実はそれだけでなく、青年の皆さんが協力してウェルカムビデオを作成し、叙階式の直後に上映してくれたのです。このビデオは青年たちが教区中の教会と修道会に呼びかけて実現したもので、それぞれの共同体が笑顔で「ようこそ！」と手を振っている場面をビデオ撮影し、それを繋げたものです。叙階式の直後、参加者の皆さんと一緒にこのビデオを通して人々の笑顔を見て、「ああ、自分は受け入れられているんだ」と、腹の底から感動し、涙が出そうになりました。その場にいなくても、会ったことがなくても、祈り合い、繋がり、心を揺さぶられることができる。思いを持って工夫を凝らせばいろんなことができると確認した時でした。

新潟教区で伝えていること

新潟教区は縦に長い教区です。一番北の鹿角教会から一番南の糸魚川教会まで車で行くと、休憩無しでも8時間ほどかかります。ですので、自然と活動は五つある地区ごとに行われることが多くなり、教区全体としての関わりが希薄になりがちです。こうした環境にあっては、教区全体で情報を共有するということが教区としての一体感を持つためにとても重要です。そのために前教区長の菊地 功大司教様がブログやフェイスブックで頻繁に情報発信してこられましたので、新潟教区には司教や教区のウェブサイトやフェイスブックをチェックする方がたくさんおられます。私はこの良い習慣が途切れることがないようにと心がけ、発信しています。

私が教区のウェブサイトと個人のフェイスブックを利用して目指していることはたくさんありますが、特に大切にしているのは各小教区、修道院の顔が見える関係づくり、そしてどのような活動をどのように工夫して行っているのか伝え、学び合うための情報交換です。どこかの教会を訪問したら、なるべくその日のうちに記事を書いて教区のウェブサイトに上げ、フェイスブックで紹介するようにしています。文字も大切ですが、顔も大切なので、写真も必ず載せます。

相手を尊重する伝え方

新潟教区には、日本で生まれた方々、そして海外出身では、すでに何年も前から日本に定住しているフィリピン出身の方々と、技能実習生、学生として比較的最近日本に来られたヴェトナム出身の方が多くおられます。ヴェトナム出身の方で定住する方も少しずつ増えています。フィリピン出身の方は、ほとんどの方が日本語で話すことができますが、それでも英語の方がしっかり理解できる方が多いです。ヴェトナム出身の方は、日本に来た時期によって様々ですが、ゆっくり話す日本語はなんとか理解できる方が多くおられると認識しています。

私は、訪問先の教会で一人でも子どもがミサに参加している場合、説教の一部を子ども向けに話すようにしています。少しでも子どもたちに教会に親しみを持ってもらいたい。少しでも教会共同体の中で、「子供たちをわたしのところに来させなさい」と言われた、イエスの思いに満ちた雰囲気を育てていきたい。そう思っているからです。

ある教会を訪問した時、小学生の子どもが一人いたので、説教の途中、その子に向けてお話ししました。そうしたらその日の夜、ミサに参加していた、その日初めて会ったヴェトナム出身の青年からフェイスブックのメッセンジャーで「お説教、とても良かった！ 優しい声で言ってくれて本当にうれしかった！」というメッセージが届いたのです。子どもに向けて話すと、日本語があまり分からなくても理解できる、という当たり前のことに気づかされました。それからは子どもがいなくても、日本語が難しそうな人がいる場合、少しでも伝わる工夫をしてお話しするようにしています。

同じような思いで、フェイスブックでは日本語と英語の両方で発信するようにしています。多くの人が英語を理解できるということもありますが、日本人だけでなく、様々な背景を持った人々に向けて発信していますよ、という姿勢を示すためでもあります。また、最近はインターネットで翻訳をすることができますが、日本語よりも英語から翻訳した方がまともな訳が出てくるということも一つの理由です。

違いを大切に

私の司教としてのモットーは、「いつもふくいんを ともに」です。それを表す紋章の中には、福音のシンボルである聖書とそれを掲げる二つの手が描かれています。二つの手はそれぞれ色が違い、それは背景の異なる人々、例えば人種、世代、性別、立場の違う人々がともに福音を生きることを表しています。

キリスト者は、自分が見たこと、伝えられたことを人に伝えていくという営みを繰り返してきました。イエスと共に留まり、十字架の死と復活を見た弟子たちはそれをユダヤ人にも、異邦人にも伝えました。弟子たちから福音を伝えられた人たちは、自分の人生の背景の中でメッセージを受け止め、自分なりに人に伝えていきました。そうやって福音はわたしたちまで伝わってきたのです。信仰は、自分と違う背景を持った人に伝え、分かち合うことによってより深められ、豊かになっていく。そう信じて、福音を伝えています。

新刊良書

★教皇フランシスコ回勅『兄弟の皆さん』

分断が進み、他者の苦しみを顧みない現代世界の闇を具体的に検証し、「よいサマリア人」のたとえを糸口にして、愛がもつ寛容性と普遍性について説き、弱者を切り捨てることのない開かれた世界を生み出すための道筋を希望をもって提言する。兄弟愛と社会的友愛に関する社会回勅。カトリック中央協議会、税別1600円。

★愛ひとすじに―シスター江角ヤス伝記

著＝妙摩光代

「早坂久之助司教の創立された『純心聖母会』を最初から聖母マリアと共に支え育てた『純心の母』…」（本書プロローグから）、シスター江角の伝記。どのような環境の中で育ち、社会人として生き、神の招きに応えていったか。教育や社会福祉、海外協力などさまざまな分野にわたる活動とその生涯を豊富な資料でつづる。シスターの修道名、聖マリア・マグダレナの祝日（7月22日）に発行。著者は同修道会会員。智書房、税別3800円。

カリス通信 10月号

介護サービス事業者に関わるリスクと保険

カリスでは、各種介護サービス事業を運営している社会福祉法人の皆様に介護サービス事業に関わるリスクと保険をご提案しております。近年の介護サービス事業者が直面するリスクとして、介護施設の欠陥、入浴介助の際のケガ、利用者の行方不明に伴う経済損失など、多くのリスクが存在しています。

＜介護サービス事業者賠償責任保険＞

1. 加入対象業種
（1）介護保険法に規定するサービスを提供する事業者
（福祉用具販売・レンタル、住宅改修または訪問看護のサービスのみを提供する事業者を除きます。）
（2）障害者総合支援法に規定するサービスを提供する事業者

＜補償対象となる業務（介護業務）＞
①介護保険法に規定される業務
②障害者総合支援法に規定される業務
③高齢者の医療の確保に関する法律または労働者災害補償保険法に規定される業務
④ホームヘルパー、介護支援専門員または福祉用具専門相談員の養成、研修
⑤その他①から④までに準ずる業務またはサービス

2. 被保険者の範囲
記名法人、記名法人の使用人（パートタイマー、ホームヘルパー含む）、記名法人の理事・取締役、記名法人の下請人等

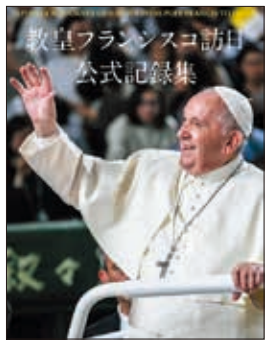
3. 保険金をお支払いする場合
以下①~⑥の事故に起因して、被保険者が法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害に対して保険金をお支払いいたします。
①対人・対物事故　②訪問看護業務事故　③管理下財物事故
④人格権侵害事故　⑤行方不明時使用阻害事故　⑥経済的事故

本保険は、介護サービス事業に特化した賠償リスクに備える保険です。思いあたる事業者様は、この機会に是非ともカリスにご相談ください。

カトリック共済システム 有限会社カリス　〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館　連絡先 0120-77-0033
カトリック共済システム 検索　21-TC04099
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
リスク・補償に関してお気軽にお問い合わせください

教皇フランシスコ訪日公式記録集

2019年11月に実現した教皇フランシスコの訪日。興奮と感動と喜びに包まれた4日間を詳細に伝える唯一の公式記録集。貴重な写真500点以上とともに、講話のテキストもすべて収録。また、訪日決定に至るまでの経過や、各行事、各典礼の規模や人員などのデータも詳細に伝える。



著者　カトリック中央協議会出版部（編）
発行日　2021年6月10日
A4変型判上製・280頁
オールカラー
本体価格　4,500円（税込4,950円）
ISBN 978-4-87750-230-0

詳細は『記録集』特設サイトをご確認ください。
https://www.cbcj.info/popeinjapan2019book/

「核なき世界基金」創設1周年が過ぎて

核兵器廃絶を目指す個人や団体を支援する「核なき世界基金」は、今年7月7日に創設1周年を迎えた。

同基金のホームページ（上の写真はトップページ画像）には、2021年7月6日付で「基金創設1周年 感謝！」と題するメッセージが、同基金を「支援する会」広島本部の白浜 満（広島教区司教）代表名で掲載。メッセージは、「当基金が『核なき世界』を実現していく民間の活動を、よりよく支援できるものとなれますよう、引き続き、当基金に対する皆様からのご協力やご意見を、どうぞよろしくお願いいたします」との言葉で締めくくられている。

また創設1周年の記念行事が、当初は7月10日に予定されていたが、大雨警報発令のために延期となり、現在、10月30日（土）に開催する方向で準備が進められている。

この1年を振り返ると、昨年10月24日に核兵器禁止条約を批准する国・地域の数が「50」に達し、今年1月22日に条約が発効したことは広島と長崎をはじめとする多くの人々、「核なき世界」の実現を目指す同基金にとっても、大きな出来事だった。

同基金事務局は、「来年1月に、オーストリアのウィーンで開催される予定の『核兵器禁止条約』の第1回締約国会議において、本基金の*第2の目的としている『世界の核兵器由来の放射能被害者の支援と放射能汚染からの環境回復の支援』についても議論がなされていくことを期待しています」としている。

＊「核なき世界基金」の主な目的は3つ。第1は「核兵器禁止条約」の批准拡大を後押しする活動の支援。第2は、上述の通り。第3は、核兵器廃棄を目指す活動の支援。

2020年
〝被爆75年から
5年間のチャレンジ〟
https://nuclear-free.net/
核なき世界基金

神学院一泊体験入学のお知らせ

今年も「神学院一泊体験入学」を実施する予定です。詳細については各小教区にお送りしている「ご案内」「申込書」などをご確認ください。お申し込み、お待ちしています。

日にち　10月23日（土）～24日（日）
場　所　長崎カトリック神学院
対　象　小学5年生～高校生のカトリック男子
その他
■新型コロナウイルスの感染状況次第ではありますが、参加定員は設けない予定です。
■主任司祭を通してお申し込みください。

カトリック病院としていのちを大切にする取り組み 第2回

長崎市にある聖フランシスコ病院は、2019年に聖フランシスコ病院修道女会から長崎大司教区へ、その役割と病院理念が引き継がれたカトリックの病院です。「身体的にはもちろん、心的、霊的にも、〝神さまから与えられたいのちを大切にする〟ことを目指し、取り組んでいます（代表役員）」。同病院を広く知っていただくための連載・第2回は、病院長と副院長による紹介です。

急性期病院としての聖フランシスコ病院

病院長　山﨑 和文

皆様こんにちは。聖フランシスコ病院のことをご存じでしょうか。病床数は190床で、中規模の病院です。急性期から回復期と緩和医療目的の患者さんを受け入れており、複数の顔を持つ病院といえるでしょう。基本的に紹介状なしで受診可能です。

その顔の中でも比重が大きいのが急性期の医療です。内科、外科、泌尿器科での通常の外来診療に加えて、人工透析や、必要な場合は患者さんに入院していただき、手術や薬による治療を行っています。放射線科の医師も控えておりますのでCT等の診断もより正確に行うことができます。非常勤の整形外科医師による外来も行っております。また、二次救急といって入院を要する救急の患者さんの受け入れも行っている、長崎医療圏の輪番群制度の中の病院であります。もちろん万能ではありません。当院に備わる医療資源でカバーできない病気であると判断されれば、遅滞なく大学病院等の高機能病院へ紹介しています。ちなみに入院数で多い病気はおおまかに、内科では肺炎、大腸ポリープ、肺がん、慢性腎臓病です。外科では大腸がん、乳がん、胆石です。泌尿器科では尿路の結石、前立腺がん、膀胱がんです。

急性期の医療を通して、当院で診療を受けた患者さんによかったと思っていただけるように努力してまいります。当院が皆様にとりまして身近な存在になることができれば幸いです。

健診・検診を強化します

副院長　磯本 一郎

「けんしん」には「健診」と「検診」があります。健診は病気のリスクファクターを発見して、生活習慣を改善し、病気の予防を目的として行われます。一方、検診はがんなどの疾患を無症状のうちに発見し、早期治療を行うことにより、その疾患による障害の発生を予防する目的で行われます。

当院では症状のある方の病気の診断・治療を行う診療だけでなく、病気になる前の予防医療（健診・検診）にも力を入れています。特に近年増加傾向にあり、日本人女性のがんで最も多い乳がんに対して、新しい検査機器を導入し、乳がん検診を行っています。ひとつはトモシンセシスです。トモシンセシスでは乳房の数多くの断層像が得られ、通常のマンモグラフィでは乳腺の重なりにより見えにくい病変も明瞭に見え、乳がんの発見率の向上が期待されます。もう一つは自動乳房超音波検査システムです。このシステムは探触子という機器を乳房に乗せ、自動で検査を行うため、マンモグラフィのような痛みはほとんどありません。また、機械的に全乳房の画像データが得られるため、検査者の技術に左右されることなく、診断精度の向上が期待されています。

今後、当院では乳がん検診のみならず、健診や他の検診を強化してまいりますので、ご自身の健康を維持するためにもぜひ健診や検診を定期的に受けていただきたいと思います。

アシジの聖フランシスコと狼（病院正面にあるご像）

教区諸委員会活動について

現在は第7期（2021～2023年度）

はじめに

11の委員会がある長崎大司教区諸活動部門は、2021年度から「第7期」を迎えた。各委員会は委員長と委員を中心に協力者と共に、23年度までの3年間を一期として引き続き活動にあたる。教区本部事務局は、10月14日に今期2回目の「委員長会議」を開催する予定。この機会に各委員会の活動計画を確認する。昨年から続く新型コロナウイルスの影響で従来の委員会活動が制限される一方、新しい取り組みも見えつつある。今後どのような動きへとつながっていくか期待される。

長崎大司教区諸活動部門
第7期　部長・委員長（敬称略）
※委員長の任命は今年5月25日付

【信仰養成部】部長　中濱敬司
信仰教育委員会　中濱繁喜（新）／青少年委員会　川端志範（新）／生涯養成委員会　山添克明（新）

【福音化推進部】部長　紙﨑新一
平和推進委員会　岩村知彦／人権委員会　尾髙修一／福祉委員会　大瀬良直人／エキュメニズム・諸宗教委員会　竹谷誠（新）

家庭委員会　川原拓也（新）
召命委員会　辻原達也（新）
典礼委員会　下山盛朗
広報委員会　山田良秋

「第1期」はいつ

21世紀を迎えたとき、時代に対応するべく改革された長崎教区の新体制が始動した（1面に関連記事）。長崎教区は2001年4月、新世紀・新千年期の始めに〝宣教する教会をめざして〟一丸となって取り組んでいくことを教区全体に広く伝え、新たに設置された11の委員会が「第1期」の活動を開始した。

11委員会設置 発足宣言
（本紙2001年4月号から抜粋）

「…本来の組織のいわば設計図ともいうべき形の検討を終え、いよいよ新年度から新しい組織のもとに出発することになりました。教区本部事務局長および十一の委員会の委員長辞令を二〇〇一年四月一日付けをもって公布し、その時点をもって新組織の発足といたします。（略）

これからはますます小教区とのつながりを密にし、互いの役割分担を進めて、負担は軽く効果は倍にする道を探すことができればと考えております。（略）

組織は所詮形にすぎません。これを生かすものは言うまでもなく人間です。

公会議が示す教会の本来の姿に照らされながらともに祈りのうちに新しい世紀の具体的教会の歩みを進めたいものです。祈りと感謝のうちに。

二〇〇一年四月一日
カトリック長崎教区長
島本 要大司教」

教区本部事務局 委員長会議開催
（本紙2001年6月号から抜粋）

「新しい千年期の福音宣教をめざして教区本部事務局が発足したが、各分野において教区の決定事項を実際に執行し、また企画推進する中で生ずる問題や課題を決定機関に対して提言、提案できる宣教委員会（※）をはじめ十一の諸委員長の第一回会議が五月十四日、大司教館で行われた。（略）

今後は、活動指針にのっとり各委員会による会合を重ねて宣教の機能的なあり方を模索しながら具体的に実践をめざすことになる。（略）」

※発足時の11委員会は現在と異なる

20年の間に

もともと活動期間の区切りは一期3年とされていたが、教区組織の見直し・再検討などで時間を要するために期間延長の対応が適宜取られている。また、委員会の新設や統廃合、委員会が属する部の新設や廃止といった再編も行われた。20年の間のこれらの変更はいずれも、組織として教区の体制と現場の実状とを照らし合わせ見直された結果だといえる。

教区諸活動部門　活動期間

第1期	2001年4月1日～04年3月31日
第2期	2004年4月1日～08年3月31日（1年延長）
第3期	2008年4月1日～11年3月31日
第4期	2011年4月1日～15年3月31日（1年延長）
第5期	2015年4月1日～18年3月31日
第6期	2018年4月1日～21年3月31日
第7期	2021年4月1日～24年3月31日

立ち位置を常に確認

これまでをざっと振り返ると、各委員会が大きな期待と希望のうちに設置されたことが分かる。その役割分担は必要に応じて変化を経ながら継承され、現在に至っている。委員会の構成メンバーは時期が来ると交代するが、教区の中での立ち位置を常に確認し活動につなげている委員会である限り、担当を離れても理解者は増えていくといえるだろう。各委員会が相互の信頼関係のもと連携をとり、よりいっそう生き生きとした活動を今後展開していくことを願う。

教会と家庭の懸け橋に

家庭委員会がつくる動画

昨年5月から今年8月末までの16カ月間で114本。これは、教区家庭委員会（川原拓也委員長）が、昨年から続く新型コロナウイルスによる影響下においてユーチューブで配信してきた動画の本数だ。待降節のように動画が毎日更新される期間もあったが、単純に計算すると、結果として月7～8本のペースで動画をつくり掲載している。

「小さな巡礼②桐小教区」

同委員会のこの取り組みは、コロナ禍が大きなきっかけとなった。「2020年5月、聖母月が始まりました。教会学校はコロナウイルス対策のためにお休みです。お家で自粛する子どもたちに、マリア様やイエス様のお話を家族でできればと思います」（最初の投稿の委員会メッセージ）

動画は、同委員会事務局を中心に、司教・司祭や修道女、信徒らの協力によって、子どもから大人まで青少年も高齢者もさまざまな世代が観て楽しめるようつくられている。最近では、上五島地区信仰教育委員会が関わって制作している「小さな巡礼」や、子どもたちと一緒に家族で学べる「SDGs（エスディージーズ）すべてのいのちを守るため」の各シリーズが続いている。

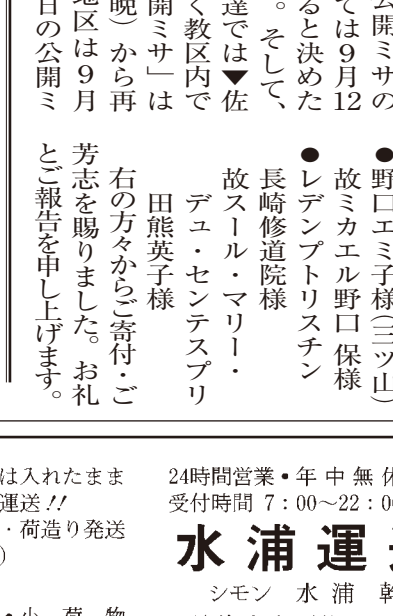
「SDGs すべてのいのちを…」

家庭委員会は、「家庭は小さな教会といわれます。コロナ禍で教会に集うことが難しい今こそ、その役割は大変重要だと思います。家庭の様子はさまざまで、皆が信者の家庭、異宗婚家庭、関係が破綻しているような状況にある家庭、一人家庭、若い家庭から年配の家庭など多岐にわたります。家庭委員会では、一人ひとりを大切に、教会と家庭をつなぐ懸け橋となれることを願っています」と語っている。

2022 家庭委員会によるカレンダー「ともにあゆむ」発行

コロナ禍の中で、皆が教会に集うことも難しくなり、ますます家庭での信仰生活に必要なものが求められています。

そこで、今回発行した2022年のカレンダーは「愛の喜びの家庭年」を意識し、異宗婚家庭や若い人たちにも配慮しながらイラストなどにも工夫をいたしました。ご自分の家庭から子や孫の家庭へ、このカレンダーをお届けいただき、信仰伝達・福音宣教の道を、親子でともに、教会とともに更なる歩みができますようにと願っております。多くの方にご利用いただければ幸いです。



販売開始は10月1日。販売方法は従来通り各教会での取りまとめを基本とさせていただきます。状況により教会での購入が難しい場合などは、教区家庭委員会へご相談ください。

1冊、税込800円。送料・振込手数料は別途かかります。お問い合わせは（TEL095-842-4450）担当・辻まで。

（教区家庭委員会）

お知らせ

〈一菜募金の支援状況〉

大雨により被災した出津小教区信徒へ見舞いのため、15万円（8月26日送金）。

〈事務所の新住所〉

二〇二一年度『カトリック教会祝日表』59頁に掲載の「NPO法人長崎巡礼センター」の事務所が、長崎市尾上町から次の住所に移転しました。電話とファックスは変更ありません。↘

〒852-8113
長崎市上野町8-1
ハイツ打越101号室
TEL 095-893-8763
FAX 095-893-8293

短信

〈コロナ感染防止の対応〉

8月27日から9月12日まで長崎県に「まん延防止等重点措置」（対象区域・長崎市、佐世保市）が適用され、8月19日から9月6日までとなっていた県独自の緊急事態宣言は9月12日までに延長（その後、佐世保市のみ9月30日までに延長）。これを受け長崎教区は、8月21日～9月6日としていた「主日・週日の公開ミサ中止」（8月20日付）を、「主日の公開ミサの中止」については9月12日まで延長すると決めた（9月2日付）。そして、9月10日付通達では▼佐世保地区を除く教区内での「主日の公開ミサ」は19日（18日前晩）から再開▼佐世保地区は9月いっぱい「主日の公開ミサ」を中止（西海市の太田尾教会は再開できる）▼9月19、26日は「主日ミサの参加義務の免除」を与える、と伝えられた。

ぶどう園

▼「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」世界文化遺産登録3周年記念展　10月20日(水)～11月14日(日)（会期中無休）、長崎歴史文化博物館。長崎県主催、同博物館共催。

感謝

―香典返し―

長崎大司教区
●野口エミ子様（三ツ山）
故ミカエル野口保様
●レデンプトリスチン
長崎修道院様
故スール・マリー・デュ・センテスプリ
田熊英子様

右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

みことばにふれて 184

髙甲屋（べっこうや） 賢治 神父
（長崎教区司祭、浦上教会）

あなたがたは敵を愛しなさい。
ルカ6章35節

「ドゥーユーライク　エッグプラントテンプラ？」主日のミサの後、小学1年生の男の子が、わたしに突然、カタカナで表現したのが、失礼なほど、流暢に、そして可愛らしい声で、尋ねてきました。あまりにも突然のことで、せめて「いえす、あい、どぅ」などと答えればよかったものを、ついつい「エッグプラントってなんだっけ？」と聞き返してしまいました。ナスのことですね。たまごの形をした植物だから、エッグプラントなのでしょう。後から、その子のお母さんが駆け寄ってきて、英語を習っていること、そして、男の子自身は、ナスが食べられないことを教えてくれました。この子は、自分の嫌いな食べ物を英語で聞いてきたのかと感心しました。自分の興味がある、好きなモノではなく、自分が苦手なモノ、嫌いなモノの英単語を覚えているということに妙に感心しました。

ことわざに「秋茄子は嫁に食わすな」とありますが、「おいしいものだから、憎たらしい嫁に食べさせるな」という意味と「茄子は体を冷やすから、大事な嫁に食べさせるな」という意味と、二つの意味があるようです。

マタイ福音書あるいはルカ福音書に「敵を愛しなさい」とありますが、わたしたちにとっての敵とは誰、あるいは何でしょうか。多くの感動を与えたであろう東京オリンピック・パラリンピックですが、競い合う「敵」であるはずの選手同士が、自己研さん、よりよいパフォーマンス・記録のための、高め合う「仲間」として、称賛し合う姿に感動を覚えられた人もいるのではないでしょうか。

敵だから、憎むべき相手だから、好きじゃないから、いまちょっと忙しいから、切り捨てる理由はなにかと容易に見つけられるものなのかもしれません。「愛する」ことは、感情としてできるものではなく、意志の発動によるものです。本能的に憎むところを克服していくものであり、克服していけるものです。

収穫の秋、たくさんのおいしいものが旬を迎えます。憎む敵を心の中につくらなければ、より楽しい宴会となるのでしょう。今日も、老いも若きも、好きも嫌いも、善人も悪人も、ミサに招かれています。

マリー・デュ・センテスプリ 田熊英子修道女

（レデンプトリスチン修道会）

8月24日逝去。89歳。東京都生まれ。1964年初誓願、68年荘厳誓願。修道生活57年。

鎌倉修道院に入会した後、長崎修道院に異動した。会計係、副院長、院長として共同体に奉仕し、歌隊長として典礼の係を務めた。持病があり2年ほど前から入院して治療を続けていたが、次第に衰弱し、8月24日午後3時32分、慢性呼吸不全のため診療所のシスター方の祈りに守られながら安らかに御父のみもとに召された。

葬儀ミサ・告別式は8月27日、レデンプトリスチン長崎修道院で行われた。

テレジア 川崎エイ子修道女

（お告げのマリア修道会）

9月2日逝去。90歳。1931年平戸市生まれ。50年田平修道院に入会。62年初誓願、72年終生誓願宣立。

シスター川崎は入会してすぐ、修道院運営の雑貨店千草屋の担当となり生計を支えた。誓願後は大浦司教館で14年、その後、大分司教館2年、本部司祭館では10年間、司教・司祭のお世話に励んだ。

田平修道院に戻ってからは変形性脊椎症などの病気を抱えながらも、共同体のために奉仕した。笑顔を絶やしたことがなく、穏やかな人柄で心優しく人に接した。3月に養護老人ホーム光の園に入居していたが、職員や姉妹に見守られながら安らかに旅立った。

葬儀ミサ・告別式は9月3日、田平教会で行われた。

マイホームの美容と健康に！
（有）山川塗装
有限責任中間法人　全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事
代表取締役　ペトロ　山川　進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330　FAX(0956)49-8729

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
（見積り無料・荷造り発送も致します）
貨物保険有り
・一般引越　・小荷物
・荒ゴミ捨て　・遠距離
・学生引越　・ピアノ運搬
24時間営業・年中無休
受付時間 7：00～22：00
水浦運送
シモン　水浦　幹雄
長崎市上野町12-3
TEL(095)(代)847-7151
844-1420

十主の平安
株式会社 五島式典社（斎場）五島中央会館 奈留会館
代表取締役　ヨゼフ　浦　昭
24時間営業
五島市上大津町1385番地1　TEL (0959) 74-5551　FAX (0959) 74-5552
五島市奈留町浦1899-1　TEL (0959) 64-3101　FAX (0959) 64-3102

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　大島和彦
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095-822-8436（ハヨミロ）
FAX 095-822-8488

注文家具の店　家庭祭壇・聖具・祭壇・長椅子・朗読台
かおり
佳織木工所
kaori-mokkousho.com
《家庭祭壇ギャラリーOPEN　パンフレットもございます。》
〒857-0032 佐世保市宮田町7-7
☎0956（23）1867
代表 ヨハネ 濱口 知博

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
長崎石彫（ながさきせきちょう）
ヨゼフ　岩永　貴弘
☎(095)862-2469
長崎市花園町23-17 立岩公園前